



たまたて箱



「私たちの原稿を編集しているワーカーズは〇〇〇〇。」〇に入る文字は？

ヒントは紙面に 応募要項は8ページ
抽選で2名様にすてきな消費材のプレゼントがあります！

組合員数 配送 15,154人 定価 5,641円 加入者数 配送 1,374人 定価 392円 脱退者数 配送 -786人 定価 -406円 総利用高 400,833,431円 世帯当り 26,451円
(2020年1月末) (2020年度累計) (2020年度累計) (2020年度累計) (2月配送) (2月配送) (2月28日現在)



中部物産貿易株式会社 林さんへ

市販のゼラチンとの違いを知りたいです。また、大人向けのおいしいコーヒーゼリーの作り方、それ以外のオススメレシピがありましたら教えてください。

たどころ さき
まち・東くるめ 田所 沙紀

中部物産貿易(株) 林さんの とっておき♥レシピ

トップメーカーが作る高グレードゼラチン

クリスタルゼラチンは、新鮮な豚皮から加工しており、不純物が入っていない高グレードな食用ゼラチンです。

ゼラチンのトップメーカーである新田ゼラチンが原料から生産に至るまで、品質並びに環境面において国際規格に基づいた世界レベルの管理で生産を行なっています。豚皮を酸処理している関係で、ポリフェノールを含むゼリーには、若干濁りが出ますが味や品質には問題ありません。



中部物産貿易(株)
はやしりょうた
林 亮太



大人向けコーヒーゼリー

- 材** 濃い目のコーヒー 300cc お湯1.5カップ
インスタントコーヒー5g(ティースプーン2.5杯くらい)
- 料** クリスタルゼラチン 5g
グラニュー糖 大さじ1.5
パステライズド牛乳・メープルシロップ お好みで

- 作** ①ボールにクリスタルゼラチンを入れ少量の水でふやかす。(ふやかさなくてもできるが、この方が溶かしやすい)
- 方** ②コーヒーが温かいうちにグラニュー糖を入れ混ぜる。
③①に②を少しずつ注ぎよく混ぜる。だまがないようによく混ぜるのがポイント。
④①をバットなどに流し入れ粗熱が取れたら冷蔵庫で冷やし固める。



- ★ゼリーにコンデンスミルクをかけてもおいしい。コーヒー液の甘さもお好みで調整してください。グラニュー糖なしでもイケます。
★ゼラチンは沸騰させると固まらなくなるので注意。熱湯で入れたコーヒーが作業している間に冷めるのでそのくらいの温度でよい。

多摩きたFacebookで詳しく掲載中

多摩きた生活クラブ生協 発行責任者 豊崎 千津美

〒189-0024 東村山市富士見町3-29-6 TEL 042-395-5002 FAX 042-395-3833 <https://tokyo.seikatsuclub.coop/tamakita/>

小平センター

西東京市、武蔵野市、小平市
小金井市、国立市、国分寺市

TEL 042-452-9797
(コールセンターにかかります)
FAX 042-451-8830

東村山センター

東久留米市、清瀬市、
東村山市、東大和市、立川市

TEL 042-452-9797
(コールセンターにかかります)
FAX 042-394-2469

青梅センター

昭島市、青梅市、武蔵村山市、福生市
羽村市、瑞穂町、あきる野市、日の出町

TEL 042-452-9797
(コールセンターにかかります)
FAX 0428-33-3154

デポー国分寺

国分寺市泉町3-32-2

TEL 042-359-5160
開店時間 10:30~18:30
定休日 毎週水曜日

デポー東村山

東村山市久米川町3-32-44

TEL 042-399-7151
開店時間 10:30~18:30
定休日 毎週水曜日

デポー西東京

西東京市泉町3-12-25

TEL 042-439-7780
開店時間 10:30~18:30
定休日 毎週水曜日



生活クラブは 情報発信も組合員から

～多摩きた生活クラブ機関紙 たまたま箱の場合～

月に1度皆さんの元に届くたまたま箱。表にはあまり出ないけど、誰がどんなふうで作っているか、知ってほしくて特集しました。



たまたま箱は誰が作っているの？

理事会で決定した年間計画に沿って内容を決め、理事が分担し調査・取材などをしながら原稿を書き、みんなで確認・校正し発行まで責任を持って作っています。4,5ページ以外のデザインは編集ワークーズのくんぺるに委託しています。

たまたま箱には何が書いてあるの？

表紙には「多摩きたの組合員数」や「センター、デポーの場所、電話番号、FAX番号」も書いてあり、困った時の問い合わせに便利！
活動の柱、『利用』『まちづくり』のページでは、消費材をもっと知るための情報や広めたい活動などを多摩きたの視点で取り上げています。また多摩きたにあるワークーズ・コレクティブの紹介「わたしたちの働く場所」では、まちで活躍する組合員が登場。新コーナー「おでかけたまちゃん」ではおすすめのスポットや組合員活動など身近な情報を発信しています。



たまたま箱トピックス

今から16年ほど前、旧多摩きたエリアに多摩西部ブロックが合流し、今につながる「16まち」の多摩きた生活クラブが生まれ、それに伴い機関紙『たまたま箱』が誕生しました。

(2004年10月第1号発行)

たまたま箱という名前は組合員投票によって決まりました。

その頃のたまたま箱の内容は、各まちから委員が集まり「情報委員会」で決めていたそうです。



以前の機関紙名は多摩西部が「アニスンダ」、旧多摩きたエリアは「さいしよはぐー」。たまたま箱1号の写真

多くの組合員が関わって作っているたまたま箱。たまたま箱を支えてくれている人たちにお話を聞きました

たまちゃんの生みの親、打木香澄さん。
素敵なイラストでたまたま箱だけでなく小平の地域協議会機関紙などにも関わっています。



Q:たまちゃんが誕生したきっかけは？

A:理事から頼まれてまちづくりの長期計画のイメージに、たまちゃんときたさんを描いたのが最初です。その後、2009年多摩きたのホームページを作るのにあたって、今のたまちゃん(たまたま箱表紙の右上)を書きました。

Q:たまちゃんはどういうキャラクター？

A:私たちと同じ子育てしている組合員のイメージです。たまちゃんの子どものくーちゃんもいます。

★たまたま箱に一言

たまたま箱は多摩きたのことがわかる身近な機関紙。見ていると新しい人が出ているのがわかって嬉しい。
イラストを描ける人は他にもいると思うので、たまちゃんに代わるキャラクターが出てくることにも期待しています！

4コマ漫画の「くらぶ家の人々」を描いている井村要子さん。さっと目を通せる漫画で、考えるきっかけになれば…と広報担当理事が考えたテーマとシナリオで描いてもらっています。



Q:きっかけは？

A:もともとはキャラバンスタッフでした。絵を描くことは好きで、「さいしよはぐー」時代に「イラストを描いてみない？」と誘われ、引き受けました。はじめは「キャラバンが行く」という4コマ漫画を連載し、その後「くらぶ家の人々」をスタート。人物設定は自分で決めました。

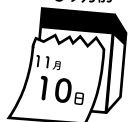
Q:一番大変なことは？

A:やはりラフ(下書き)を描くのが大変です。もらったシナリオでわからないことがあればインターネットで調べながらなので、描くのにも1日ほどかかります。「組合員に伝わっているのかな？」と気になります。マンガの感想も、もらえるとうれしいです。

たまたて箱ができるまで

～2021年2月号2-3ページ『欲しいをかたちにするまちづくり』の場合～

3ヶ月前



テーマ決定！

多摩きた2020年度活動方針に「生活クラブ運動グループ地域協議会との連携」を掲げているけど、地域協議会を知らない組合員もいる。「みんなに地域協議会のことを知ってほしい」ということで、組合員数600名弱の小さいまちながら、多彩な団体が集まる昭島の地域協議会を取り上げることにしました。



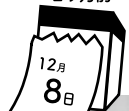
取材へ



昭島地域協議会の各団体へインタビュー



2ヶ月前



打ち合わせ



ここですね！

ここにイラスト入れたいです！

できた原稿をもとに広報担当理事とくんぺるの打ち合わせ

インタビューまとめ原稿作り



原稿チェック

打ち合わせをもとに原稿チェック&修正、モニターアンケートの確認、プレゼントの抽選、呼だまの選考etc.

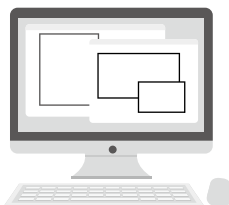
校正

1ヶ月前



制作依頼

紙面のデザインを請け負っているのは「ワーカーズ・コレクティブくんぺる」。

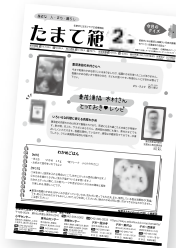


校了

※原稿の最終確認を終え印刷可能な状態にすること

印刷

たまたて箱 完成～!!
飯能のデリバリーセンターで丁合され、組合員のもとへ。
(デポーでは、組合員に広報物を届けるデポー独自の組合員活動(情報ワーク)が配布)



生活クラブの活動の主体は組合員、その考え方は先輩方からずっと伝えられていることです。それは機関紙でも同じ。多少つたないところがあっても、プロ(編集ワーカーズ)の力も借りながら、組合員が組合員に伝えていくことに意味があると考えています。私たちの血と汗と涙の結晶「たまたて箱」。これからも、まずは読んでもらえるように、思いが伝わる機関紙になるように進化していきます!(予定)

2018年4月、誕生した「ワーカーズ・コレクティブくんぺる」。そこにはたまたて箱が深く関わっていました。



Q:きっかけは?

A:2002年「組合員活動でまかなわれていたものの一部を、スキルがある人に仕事として任せよう」という動きがありました。広報紙の制作もその一つで、デザイナーとしての技能や機器を活かせるということで手を挙げたのが始まりです。「消費材の良さやさまざまな活動の意義を伝えたい」という熱い思い。それを形にして、作る側、見る側の組合員両方に貢献できるこの仕事にやりがいを感じます。組合員として運営に関わることは必要ですが、みなが同じように参加するのが難しいなか、専門分野を専門家が請け負うこと、できる人ができることをやる体制ができ、仕事になっていることにも意義を感じています。

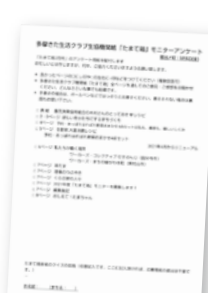
たまたて箱モニター

毎年、紙面での募集とまちからの推薦で総勢30名ほどが活動しています。紙面の読みやすさ、内容についてモニターからの意見をもらい、紙面の充実に活かしています。モニター交流会では直接会って意見交換も。
(2020年度はコロナの影響で開催できませんでした)



以前のモニター交流会 親子で白玉団子を作って企画を体験。その後意見交換を行ないました。

毎月お届けするアンケート用紙メールや配達便で提出してもらっています。



共同購入委員会とまちづくり委員会ってどんな委員会？

多摩きた生活クラブには、共同購入委員会とまちづくり委員会という「専門委員会」があります。16まちの委員が、月1度の委員会に出席して、多摩きた生活クラブ全体の活動について

話し合っています。2020年度はオンラインを中心とした委員会活動でしたので、過去の委員会の様子を中心に生活クラブの活動についてお伝えします！



共同購入委員会

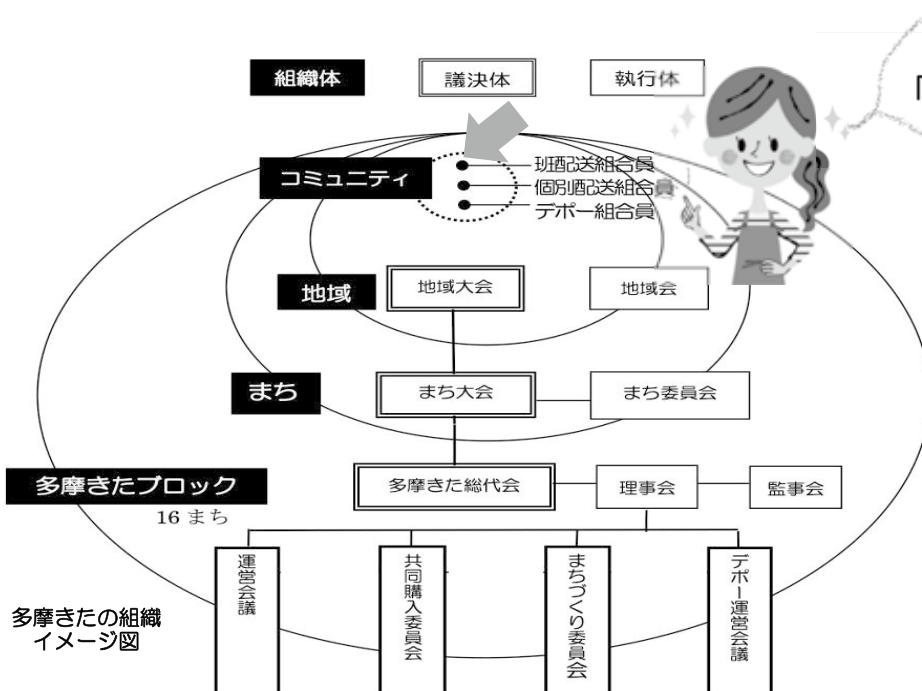
消費材について、その生産現場や社会情勢などを知り、利用し続けていくために何が必要かを話し合っています。新規の消費材の試食、圃場見学、生産者交流会なども行なっています。

ある日の共同購入委員会・・・

この日は牛乳の市場調査をしてきたことのまとめ。価格、パッケージの表示、風味など、みんなで意見交換しました。
この後、生活クラブの牛乳を利用する人を増やすためには何が出来るかを話し合い、ひと目で牛乳がわかるリーフレットを作ることになりました。



青果物の生産者、武蔵村山グループの圃場を見学。土づくりや堆肥についてエピソードを伺い、無農薬・減農薬栽培の大変さを知り、カタログではわからない消費材の良さを組合員に伝えようと、まちの機関紙に記事を掲載しました。



「私」はココ!

組合員全員での話し合いはできないため、**まち委員会**や**理事会**(組合員から委任された執行体)が話し合いの場(まち大会や総代会)を持ち、組合員の代表(代議員や総代)によってまちや多摩きたの活動を決めています。

一方**地域**という集まり(組織体)では、意思ある組合員による**地域会**(執行体)が地域大会を開催し、その地域の組合員全員が1人1票を持って、地域の活動を決定しています。地域がないまちもありますが、思いのある人が新しく作ったり、復活させる事もできます。

まちづくり委員会

ある日のまちづくり委員会・・・

再生可能エネルギーの市民電力「こだいらソーラー」の学習会と委員会の後、「こだいらソーラー」の見学。地域でエネルギーを作り出すことの重要性を知りました。



小金井の生活クラブ運動グループ巡り。たすけあいワーカーズ、配食サービスやまちの縁がわ、エコメッセなど様々な機能が連携している事例の一つとして見学させていただきました。他のまちの様子を知ること自分のまちの良いところや、足りないところを考えることができます。

地域福祉と環境のテーマを柱に、課題を学び、自分たちでできる解決方法をみんなで考え、それぞれの地域で実践しています。



別の月。「暮らしに関わる水の話」の講座。講師のお話の他、各まちから持ち寄った水道水を試薬で調べてみました。地域によって水質が違っている事がわかり、自分のまちの「水」に関心を持つきっかけになりました。

専門委員会とまち委員会

暮らしの課題は地域ごとに様々です。まち委員会ではそこに住む地域の組合員が自分たちで考え、決めて実行しています。大きな枠組みで対応しなければならないことがある場合は、それぞれのまちからでた提案を専門委員会で話し合い、解決への道を探ります。

他に、多摩きたの5年ごとの長期計画策定にも関わり、みんなで活動・点検をしています。

生活クラブ = 「おおぜいの私」 のこと

生活クラブに参加することが生活の豊かさを実現することにつながっています。消費材を利用することだけでも「参加」になりますが、もう一歩踏み込んでまちの活動にも関心を持ってみませんか？

まちの広報紙・地域協議会機関紙をぜひ開いてみて下さいね。



次号たまたま箱5月号からは、各まちの専門委員会のメンバーを紹介していきます。お楽しみに！

私たちが 働く場所

生活クラブの活動から生まれた「地域で必要とされる仕事」。さまざまな仕事の中からは、今年度は多摩きたエリアにあるたすけあいワーカーズを1団体ずつ紹介していきます。「利用したい」「働きたい」という方はお近くの事業所にご相談ください。

NPO・ACT 昭島たすけあいワーカーズ 大きなかぶ

住所：昭島市朝日町1-4-12 マルマンビル201

電話：042-545-0890

事業内容：居宅介護支援事業・訪問介護事業



1人の利用者を複数で担当し、情報交換を密にしてメンバーが1人で抱え込まない体制を作っています。

『大きなかぶ』がめざしているもの・事業について

老いても障害を持って、自分らしく住み慣れた昭島で暮らし続けたい。子育て中や、病気やけがなどで援助が必要な時も、家族を超え地域で支えあっていきたい。安心して暮らし続けられるまちづくりに必要なことは何かを市民の立場で考え、1995年からACTと連携し自立援助サービスを行なって来ました。その後 公的制度の開始に伴い、訪問介護事業、障害福祉サービス事業、居宅介護支援事業も始め、今は公的な事業の割合が大きくなりましたが、度々の制度改定により公的な制度だけでは在宅が難しい利用者への支援を含め、ACTつながるケア(2018年に自立援助サービスを改定)で生涯の様々な場面を支えていければと思っています。

大きなかぶのメンバー

現在大きなかぶのメンバーは33人。実際に働いている人は27人です。ちなみに昭島市内のACT会員は156人います。大きなかぶは、設立当初からワーカーズ・コレクティブの考え「全員で運営や経営を考える」を大事にしてきました。普通の働き方を求める人にも理解してもらえるように説明し、メンバー全員参加の定例会などで情報共有しみんなで決めることを大事にしています。

またメンバーの発案で地域の方が気軽に集まれる場所ミニデイ「おしゃべり広場」をボランティアで月2回開催しています。



ミニデイ：「おしゃべり広場」は地域の方の居場所であると同時に、運営するボランティアにとつての居場所にもなっています。昨年12月、包装紙で作ったミニツリー。

うの まゆみ
宇野 真由美

たすけあいワーカーズってなに？

ACT会員の有志が集まって作ったワーカーズ・コレクティブのこと。一人一人が出資し、対等・公平な組織運営で経営に主体的に関わります。つながるケア※の他、介護保険や行政委託のケアサービス、居場所づくり、サークル活動、子ども食堂など地域で多彩な活動をしています。

※子育て・介護・家事など暮らしの中で困ったときに、たすけあいワーカーズが一人ひとりの状況に応じてコーディネートしサポートしてくれる会員相互のたすけあいの仕組み。サービスを受ける側も担う側も会員になって、お互いを支えあうことを目的としていて、誰でもACT会員になることができます。

ACT年会費 3,000円

利用料金(参考) 平日(9~18時) 1時間2,420円(税込み)
都内33カ所、多摩きたエリアには12カ所の事業所があります。



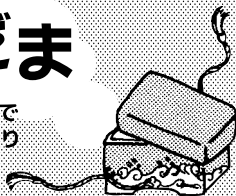
高齢者疑似体験の様子。地域で介護などの学習会なども行なっています。

ACT (アクト=アビリティクラブたすけあい) とは

できる力・持っている力を発揮する(Ability)仲間が集まり(Club)、たすけあうことをめざす組織です。赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが住み慣れたまちで自分らしく暮らせるよう、地域でたすけあいのしくみづくりをしています。それぞれの地域で独自にACTつながるケア(家事・子育て・介護などのサービス)、地域のコミュニティづくり、国・自治体への政策提言などを行なっています。生活クラブ運動グループのひとつです。

こ 呼だま

1月号の応募用紙で
いただいた感想より



日頃から利用している生活クラブの豆腐。豆腐屋さんの声を聞くことができ、より身近に感じることができました。また消費材開発プロジェクトの記事を読み、デポーに「堅しぼり豆腐」を買いに行きたくなりました。

まち・国立 矢嶋 佳代さん

毎号の連載で生産者の様子がわかって、よりいっそう消費材に愛着が持てますね。

まち・武蔵野 鴨田 由紀子さん

2024年から始まる森林環境の健全化（森林環境税と森林環境譲与税の活用）にはワクワクします。多摩地区にはテーマパークではない森があります。宝物と感じます。

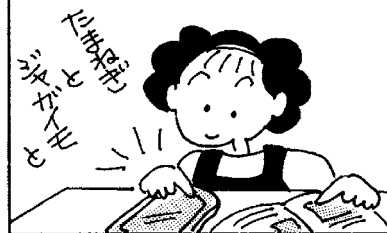
まち・青梅 溝口 美奈子さん

ご意見・ご感想をお待ちしております。
巻末の用紙に書いて、提出してください。

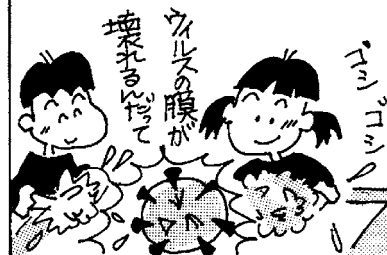
私たちの生活様式

くらぶ家の人々

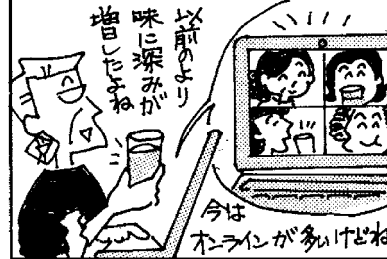
買い物は配送やデポーで計画的に



泡立てた石けんで手洗い



試食会や生産者との学習会



正しい情報を集めて自分で判断すること



私たちがずっと大切にしている生活様式

編集後記

この機関紙「たまたま箱」ってどれくらいの方が読んでくれているんだろう？まちの組合員や理事、生活クラブ運動グループの方たちの思いが集まり毎月冊子にまとまる。「忙しくてそんなの読む暇ない…」こんなご時世だからそんな人もいるだろう。でも紙媒体のメリットは後でも読めること。読んだ人が心を動かし、次の行動につなげてくれることを強く願っている。

わたなべ 文男

理事の つぶやき



生活クラブでんきは、全国61ヶ所の発電所から送電されます。そのひとつ、福島県にある会津電力・雄国発電所を見学しました。景観を損なうことなく建てられ、雪の影響を受けないよう太陽光パネルには45度の傾斜がつけられています。利益を重視した発電所ではなく、小規模であることにこだわって作られていました。再生可能エネルギーで電気を作り出すことで地域の自立をめざすってすごいな！って実感しました。

(合)大和川酒造店の日本酒「純米辛口 弥右衛門」は、会津電力と生活クラブでんきのつながりから生まれた消費材です。ぜひお試しください。

山崎 きぎく(まちづくり/まち・きよせ担当)

事務局 だより

4月から新任で多摩きたブロック事務局次長になりました。入職1年目から3年目まで武蔵村山センター(2011年閉鎖)に配属されて以来、10数年ぶりの多摩きたです。今年で41歳、家族は妻と思春期&反抗期真っ只中の娘2人と犬1匹(ゴールデンレトリバー)の4人+1匹です。今年の年末年始は、嵐(アイドルグループ)ファンの娘にテレビを占領され、ずっと嵐のテレビ番組やライブ映像を見せられました(笑)趣味はスノーボードや料理、古着屋巡り、犬と一緒に川遊びに行ったりなど、浅く広く色々あるのですが、コロナの影響で遊びに行くのは自粛しております。多摩きたの活動を皆さんと一緒に盛り上げて行けたらと思いますので、よろしくお願ひします。



多摩きたブロック
事務局次長
井上 正芳

おでかけ♪ たまちゃん!!

go!



デポー東村山の鮮魚コーナーに行ってきたニャッ!



その日の漁で獲れた海の幸を残さず食べよう、という趣旨で、発注していないものが入荷することもあるのだそう。マンボウがきたこともあるっていうからびっくり!! 料亭などで使われる珍しい高級魚が入ることも。「この魚食べたい!」というのがあったら相談してください。って鮮魚担当のワーカーズさんが言ってたよ。ぜひ一度行ってみてね。

? クイズの応募要項と当選者発表

下の応募用紙にクイズの答えと、必ず今月号の感想、必要事項を明記のうえ、配達便でセンター事務局、またはデポーのレジまで提出してください。表紙の多摩きた生活クラブ生協まで郵送、FAXまたは、多摩きたWEBサイト(多摩きた機関紙・通信)からも応募できます。正解者の中から抽選のうえ、2名の方に消費材をプレゼントします。

提出頂いたご意見・感想は、機関紙「たまたま」の「呼だま」の欄に、所属するまち名とお名前(フルネーム)で掲載させて頂くことがあります。また、文意の変わらない範囲で字句修正する場合がございます。

1月号の答え:「堅しぼり(豆腐)」です。

『豆腐プロジェクトの発案でデポー国分寺で取り組みが始まったのは、○○○○豆腐。』でした。

まち・武蔵野 ^{たかこ} 三浦 貴子さん、まち・東村山 ^{きぬよ} 津田 絹代さん

●クイズ応募用紙&ご意見・感想用紙●

たまたま箱4月号

◇表紙クイズの答え []

※4月30日(金)到着分有効です。

★必ずご意見・ご感想をお書きください。

お名前

TEL

FAX

組合員コード

班・個配・デポー (いずれかに○) まちな

生活クラブメールマガジン無料配信希望

いいえ・はい→e-mail

@

*記入していただいた個人情報については組合員活動の目的以外には使用いたしません